

第 20 回研究発表大会

統一論題・シンポジウム

「経営の質・倫理と CSR」の趣旨

第 20 回研究発表大会実行委員長 山下 洋史 (明治大学)

出見世 信之 (明治大学)

日本の製品は、きめの細かい品質管理 (QC ; Quality Control) により「品質が高い」との評価を世界の多くの国々から受けてきました。こうした品質 (クオリティ : Quality) の高さは、主として QC サークルに象徴される現場での徹底した品質管理に支えられてきたのです。

しかしながら、近年は周知のように、品質事故・品質不良やリコール問題が多発しています。さらに、このような事故や不良のみならず、やらせ問題や不祥事が大きくメディアを賑わわせています。これは、現場の品質管理という枠を越えた、企業全体としての「経営品質」と「経営倫理」の問題であることを意味します。経営者をはじめ、すべての従業員に

「経営倫理」を浸透させることにより、社会の足を引っ張る企業ではなく、社会に貢献する企業にならなければならないのです。

社会は、こうした観点から企業の社会的責任 (CSR) を常に監視しています。

そこで、日本経営倫理学会第 20 回大会では、上記のような問題意識に基づいて、これまでの狭い品質管理ではなく、経営の「質」と「倫理」と「CSR」の問題をもう一度見つめ直し、それらを総合的に論じようと考えたわけです。

シンポジウムでは、当該分野の研究をリードする本学会会員をパネリストとして、フロアとの活発な議論を展開したいと

考えております。テーマは、効果的な日本型経営倫理モデルについてで、日本型企业の特徴、組織認識、組織学習、経営の質、

CSR の観点も考慮しながら、議論を展開していく予定です。統一論題では、シンポジウムでの議論をふまえながら、

個別のテーマで上記の問題に関して研究を深めていくことをめざしております。さらに、それを学会運営面で支えるべく、

明治大学「経営品質科学研究所」を協賛とさせていただきました。

当学会会員の皆様の積極的なご発表とご参加を、心よりお待ち申し上げます。

以上